

旭ろうさい病院ニュース

病院情報誌 第186号

令和6年6月1日発行

発行所：旭ろうさい病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

当院の尿路結石治療について

泌尿器科 主任部長 西川 源也



尿路結石は小さければ自然に排石されますが、結石が大きい場合や結石位置によっては、自然に排石されず、腎後性腎不全や尿路感染症の原因となりうるため、当院では尿路結石治療を積極的に行っています。現在、尿路結石症に対する治療は、以下の内視鏡治療が主流になっていますので、当院では旧病院で行っていた体外衝撃波結石破砕術(ESWL)は廃止しました。

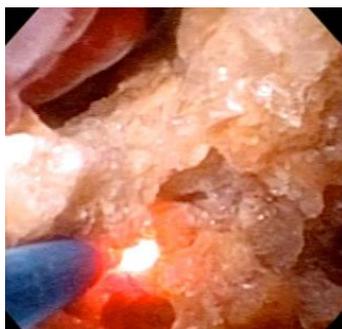
術式	件数			
	2020年	2021年	2022年	2023年
経尿道的結石破砕術 (TUL)	93	121	106	159
経皮的結石破砕術 (PNL)	5	6	1	2

【経尿道的結石破砕術 (TUL)】

腰椎麻酔下、碎石位で手術を行います。尿管鏡を尿管に挿入し、尿路結石を Ho:YAG laser で破砕し、バスケットカテーテルを用いて抽石します。完全に抽石したのを確認し、尿管ステントを留置します。

当院の TUL の特徴

- ① 1泊2日入院で治療します。（手術当日入院・翌日午前中退院）
- ② 手術翌日に尿管ステントを抜去します。
（尿管ステントによる血尿や下腹部痛などの症状、尿管ステント抜去時の膀胱鏡挿入など、患者のQOL低下を予防するため。）
- ③ 尿管結石による症状が強い場合などは、当日緊急で手術を行います。
- ④ Single-use 軟性尿管鏡を導入し、従来より鮮明な画像で結石治療を行います。



【経皮的結石破碎術（PNL）】

20mmを超えるような大きな腎結石に対する術式です。全身麻酔下、腹臥位で手術を行います。まずは背中からエコーガイド下で腎臓に穿刺し、腎瘻を造設します。硬性腎盂鏡を挿入し、超音波破碎機やHo.YAGレーザーで腎結石を破碎・抽石します。完全に抽石したのを確認し、腎瘻カテーテルを留置します。

【今後の結石治療について】

- ① ECIRS (Endoscopic combined intra renal surgery)の導入を検討しています。
TUL と PNL を同時に行うことにより、PNL 単独と比べて、安全に効率よく腎結石治療を行うことができます。
- ② 現在より破碎効果の高い Ho.YAG laser や Thulium laser の導入を検討しています。

先生方の日常診療において、尿路結石を疑ったり尿路結石症と診断し、結石治療が必要な状況であれば、ご紹介いただくと幸いです。

迅速に診断・結石治療を行いますので、今後ともよろしく願いいたします。

排尿ケア推進室における 排尿ケアチームとしての取り組み

泌尿器科 部長

飛梅 基

皮膚・排泄ケア認定看護師

西畠 千恵

排尿ケアチームとは

入院患者さんの排尿自立が退院後の生活に重要であることが認められ、排尿管理に関する管理・指導を行うことを目的としています。

排尿に関する知識・ケアを向上することで、例えば尿道カテーテルを長期間留置すると、自分で排尿する必要がなくなるため、ベッド上で生活する時間が多くなり、全身の筋力低下を引き起こします。尿道カテーテルを早期に抜去し、尿道カテーテル留置に伴う尿路感染を防止するとともに、排尿が自立できるように指導することにより、患者さんのQOL向上を目指します。

当院においても、2019年11月より排尿ケアチームとして活動を開始し、2020年度より排尿ケア推進室と名称を変更し現在活動中です。

構成人員は泌尿器医師、看護師(皮膚・排泄ケア認定看護師、所定の研修を修了した看護師)、理学療法士の多職種で、それぞれの専門性を活かしながら排尿ケアの実践と院内教育を行っております。

排尿ケアチームの構成および役割

【泌尿器科医師】	役割
	・患者の排尿機能の検査、薬物療法
【看護師】 皮膚・排泄ケア認定看護師 排尿ケア専任看護師	役割
	・患者情報の収集、排尿アセスメント、残尿測定方法の指導、 ・患者に対する排尿日誌の活用 ・自排尿できない患者の自己導尿指導、 ・個々の患者に適応したオムツ・パッドの選択など

【理学療法士】	役割
	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ介入の検討 (リハビリ介入により排尿状態が改善すると考えられるリハビリ未介入患者の選択) ・患者の ADL 評価 ・トイレ動作に向けたリハビリの立案 ・尿失禁患者の骨盤底筋訓練の指導

活動内容	
定期的排尿ケアラウンド	毎週火曜日
平均介入件数	300 件/年
排尿ケアチーム会議	毎月 1 回開催

排尿ケア推進室は、疾患や治療管理のために尿道カテーテルを留置されている患者さんを対象に、1 日でもはやく尿道カテーテルを抜去し、適切な排尿ケアを実施します。また、患者さんが自立して排尿できるよう支援することにより、QOL を改善し、より良い生活へ復帰できるよう支援するとともに、早期退院や寝たきり患者さんの減少を目的としています。

排尿ケア推進室は、医師・看護師・理学療法士などの多職種の職員で構成されており、それぞれの専門性を活かし患者さんにとって最もよい排尿ケアを提供できるよう関わっています。2020 年 4 月から活動を開始したばかりで、まだまだ発展途上のチームです。

患者さんにとって排尿は生活する上で切っても切れない問題です。日本では排尿トラブルについて、なかなか恥ずかしくて相談ができないという風潮があります。しかし、誰もが人生の最期まで自身で排尿を管理したいという思いを持っています。その思いを尊重し、排尿の自立ができるように排尿ケア推進室は活動しています。なかなか人には相談しにくい排尿トラブルなどの相談窓口になりますので、お気軽にご相談ください。



子宮頸がんワクチン

～健康を守るための正しい情報～

婦人科 主任部長 浅井 英和

日本の子宮頸がんの罹患者は年間1万人をこえ、死亡者は年間3,000人に迫ろうとしています。特に出産、子育て時期の中心となるAYA世代の子宮頸癌罹患率、死亡率の増加が、日本では大きな問題となっています

日本では政府が推奨を辞めたことにより、接種率が極端に低下。その結果、世界だけでなくアジアの中でも大きく遅れをとっています。

(現に接種率の高いオーストラリアは子宮頸がん絶滅に近づいています)

政府の推奨がなかった時期に、接種できなかった方16才から26才の方に、公費で行われるワクチン無料接種制度キャッチアップが現在行われていますが、知らない人も多く、今年度をもって終了となります。

正しい情報をより多くの対象女性、その親御さん、おじいちゃん、おばあちゃんにも知っていただくために、このケーブルテレビにて情報提供を企画していただきました。



写真、中央が浅井医師

先日、グリーンシティケーブルテレビの制作番組、尾張旭市行政情報番組「あさチャン」の収録がありました。これは尾張旭市健康課と相談し、子宮頸がんワクチン正しい情報と、キャッチアップ制度があることを尾張旭市民に知ってもらうために、尾張旭市健康課が企画したものです。

収録は、私の慣れない話を司会のフリーアナウンサーの武田さんがリードし、健康課の廣岡さんの詳細な情報提供、スタッフさんの進行に助けていただきながら、無事収録を終えることができました。現在、製作・編集中です。

市民の方に正しい情報が伝わり、子宮頸がんワクチンの普及につながる事ができればと切に願っております。



取材の様子。写真、右から二番目が浅井医師